

## 平成 30 年度 入学式 式辞

本日、熊本県立大学の先祖の地であり、熊本女子大学のあった、ここ県立劇場において、新たに入学されるみなさんと出会い、大学関係者一同たいへん嬉しく思っています。めでたくこの日を迎えられたご家族の方々にお祝いを申し上げます。このよき日を、ご来賓の蒲島郁夫 熊本県知事、森浩二 熊本県議会副議長をはじめとする多くの方々と共に慶びたいと思います。

熊本県立大学は、昨年、創立 70 周年を迎えました。公立大学としては最古の部類であります。秋の式典には小泉純一郎元内閣総理大臣にお越しいただき、学びの重要性や、学びを継続する必要性を力強くスピーチして頂きました。いまは、私から、みなさんに伝えたい。みなさんに必要なことは、人間の貴い本能であるはずの学びへの憧れと、人間の貴い意志であるはずの学びへの覚悟を持つことであります。学ぶことで私たちは向上できる。そのことを忘れてはいけません。しかも、怠惰からの自己発展はないと覚悟することです。真剣な態度で臨まないと、学びの神が微笑んでくれることはない。学ぶ意欲が大切です。意欲をなくしてはなりません。

吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』を読んだことがありますか。昭和初期に出版されたものですが、昨年漫画の形式となり、売れていると聞きます。「どう生きるか」を自らに問い続けることは人間の普遍的な課題です。大学生は、学生とは言え、高い学識をもって社会で生きることを志す人々の集まりですから、自ずと自覚が求められます。学びへの敬意と共に自己を研鑽し、生涯を生き抜く力を得ること。また、多様な価値観を受け入れ、気高く柔軟な人間愛を育むこと。そして、人類の幸福を願い、自分に何が出来るかを考えて行動すること。これらの、どれもが大学で学ぶ知識人の目標とすべきことであります。ただ、私は、これらの全てに関わる大前提として、言葉への感性を研ぎ澄ましてほしいと願います。

人間は言葉の世界で生きています。言葉は人の世に不可欠であり、私たちにとって極めて身近な存在です。あまりに身近だから、かえって無頓着になります。言葉を単なるコミュニケーション・ツールなどと矮小化してはなりません。学問は言葉で為されます。言葉の一つ一つは、ものごとの截然たる「区別」を表すものです。世にある殆ど全てのものを言葉に置き換え、それを意思伝達のための表現に取り込み、認識の材料として受け取めて、私たちは生活しています。そのような言葉の源流を枯らしてはなりません。

世界中に、富を持つ者・持たざる者、平和を持つ者・持たざる者、愛を持つ者・持たざる者があります。人類の社会は、案外と不公平です。そんな人類に平等に与えられているのが、形態や種類こそ違え「言葉」です。言葉を持たぬ人はいない。大げさに聞こえるかもしれませんが、言葉を人類の宝だと認識すれば、それは共有の財産であり、世界中の人々は誰も価値ある宝を持ち得ているのだと思えます。だから、言葉を大切にしましょう。人間は言葉によって全てを理解しようとし、私たちは言葉によって認識し思考し、知識とし学力とし、経験とし思い出とし、励まされ慰められ、傷ついては怒り、憎んでは愛し、いたわり、慈し

み、感動します。人生は言葉の彩りに満ちています。言葉を大切に思える人生は幸せな人生だと、私は考えています。天災であれ病気であれ、不幸にして一切の言葉を失くした世界を想像してみれば、言葉を使いこなせる有難さに気づくはずです。今年2月に亡くなった石牟礼道子さんは、水俣病と文学とに向き合った熊本の作家です。その言葉遣いは激しいものです。歌集「海と空のあいだに」のなかには言葉と格闘する彼女の姿があります。意識の奥底に眠っていたものを引きずり出してきたかのような表現の数々に驚かされます。石牟礼さんの文学精神は、語ることを奪われた人々の言葉を我が身に宿し、世に送り出すことであります。彼女の言葉に力があるのは、そんな心持ちのせいでしょう。私たちの生命は、偉大なる自然の前に、ちっぽけであります。そして、愚かな人々の所業の前に、はかなくもあります。常日頃から可能な限り、全ての命を大切に思う。言葉には気持ちを籠めて託し、しっかりと伝える。大切な存在である私たちに宿された言葉を行使できない不幸、行使しない無責任があってはならぬと、石牟礼さんは言葉を紡いだ。その精神を私たちも大切にしたいものです。

言葉の話をしました。それについては母国語だけでなく、外国語も視野に入れてほしいと思います。みなさんには、ぜひ、外国人ともコミュニケーションが取れる言語能力を身につけてほしい。グローバルという言葉を知っていますね。「地球規模の」あるいは「まるい」という意味です。グローバル人材という言い方もされますが、私たちは地球が丸いことを知っていても、つい自分の立ち位置だけでものを考えがちです。グローバル人材とは、国際舞台で活躍する人々を指すのではなく、まるい地球を俯瞰してものが考えられる人のことです。広い視野を持ち、複眼的な思考が適うことで、人間の可能性は無限に開花すると信じます。それは誰にとっても手にしたい能力のほうです。2014年に建築界のノーベル賞とされるプリツカー賞を受賞した坂茂さんは、高校卒業後に渡米し、能力を磨いて今日の活躍を得ます。坂さんは「アメリカでは学生は学業に励み、自分の道を自分で切り開いていくというのが普通です。日本の学生は世界レベルで自分たちを見つめるべきです」と述べています。居心地のよい日本で暮らしていると私たちのイマジネーションは進化しません。アルバイトの稼ぎを遊興費などに当てず、自らを高めるための海外研修に投資してみてはいかがでしょうか。そのための第一歩として、外国語能力の習得に励みましょう。熊本県立大学には、初歩から応用、実践までの充実した語学プログラムが用意されています。自ら主体的に、積極的に語学の習得に励んでください。

桜は散り始め、もはや寒さもほとんど感じなくなった、春爛漫の今日このごろです。

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

俵万智の有名な現代短歌です。私たちはひとりでは生きていけない。人と交わりながら生きていくから言葉が必要となる。言葉を交わすことで心が喜び、生きる勇気を得、信頼が生まれ、愛が育まれる。生きるって、本当にすばらしい。人間とは本当にすばらしい。みなさ

んの学生生活が春爛漫ならぬ、心豊かで充実した人間関係に彩られることを祈念し、熊本県立大学がみなさんの未来を育む、輝かしい学びの場であることをここに誓い、本日の式辞といたします。

平成 30 年 4 月 7 日

熊本県立大学 学長 半藤英明